

# 報 告

## 「高齢社会対策の現状と課題」

本多 則恵

(内閣府高齢社会対策担当参事官)



高齢社会対策を担当しております、内閣府参事官の本多と申します。今回このフォーラムでお話をさせていただくのも3回目になります。どうぞお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

今回は「高齢社会白書」の概要版に沿って説明をさせていただきます。今回は高齢者の社会的孤立をテーマにしていますが、まず基本的なデータから紹介します。

(「高齢社会白書(概要版)」参照。なお白書は、<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>にてダウンロード可能。以下でカッコ内に示す図表番号は、白書概要版で示される図表番号である。)

### I. 高齢化の状況

65歳以上の人口が総人口に占める割合(高齢化率)は、約4人に1人、正確にいうと22.7%です。75歳以上人口も10.8%にまで及んでいます(表1-1-1)。

表1-1-1 高齢化の現状

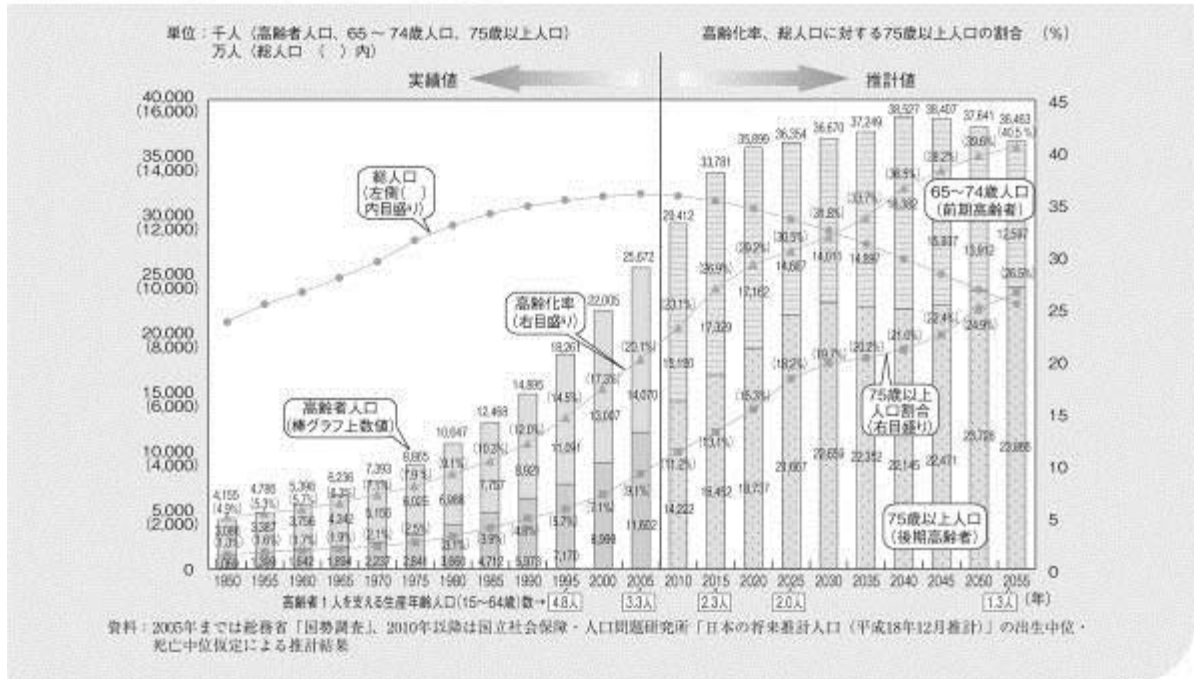
単位：万人（人口）、％（構成比）

		平成21年10月1日			平成20年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,751	6,213 95.0	6,538	12,769	6,225 (性比)95.1	6,544
	高齢者人口(65歳以上)	2,901	1,240 (性比)74.7	1,661	2,822	1,204 (性比)74.5	1,617
	65～74歳人口(前期高齢者)	1,530	720 (性比)89.0	809	1,500	706 (性比)88.9	794
	75歳以上人口(後期高齢者)	1,371	520 (性比)61.0	852	1,322	499 (性比)60.6	823
	生産年齢人口(15～64歳)	8,149	4,101 (性比)101.3	4,048	8,230	4,141 (性比)101.2	4,090
	年少人口(0～14歳)	1,701	872 (性比)105.1	829	1,718	880 (性比)105.1	837
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口(高齢化率)	22.7	20.0	25.4	22.1	19.3	24.7
	65～74歳人口	12.0	11.6	12.4	11.7	11.3	12.1
	75歳以上人口	10.8	8.4	13.0	10.4	8.0	12.6
	生産年齢人口	63.9	66.0	61.9	64.5	66.5	62.5
	年少人口	13.3	14.0	12.7	13.5	14.1	12.8

資料：総務省「推計人口」（各年10月1日現在）  
 (注)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

今、人口推計は2055年まで出ていますが、2055年までいくと2.5人に1人が65歳以上で、4人に1人が75歳以上です（図1-1-4）。

図1-1-4 高齢化の推移と将来推計



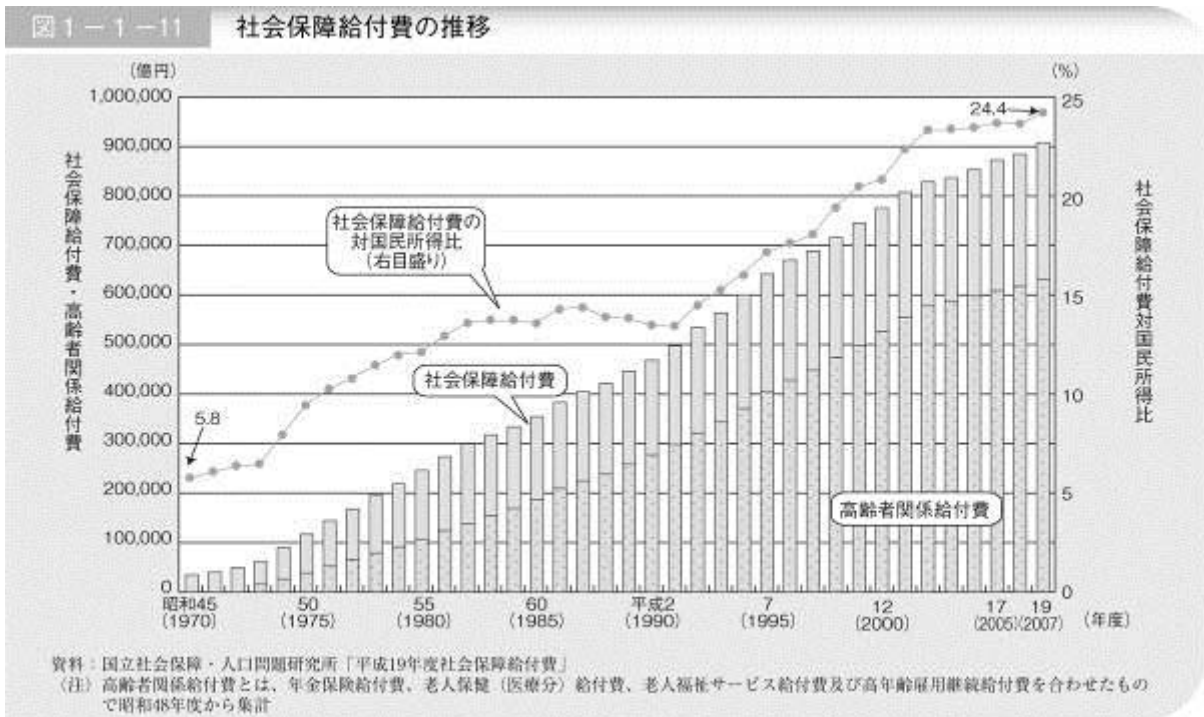
これからも高齢化が進んでいくのですが、65歳から74歳ではなく、75歳以上のいわゆる後期高齢者が増えていきます。高齢化率が7%、14%ときて、日本はもう21%を超えて、超高齢社会とおっしゃる方もいますが、私どもでは本格的な高齢社会という言い方をしています。

4ページに、平均寿命の延びを書いています（図1-1-7）。



今の時点で男性が79.29、女性が86.05です。これが今後さらに延びて女性は90歳を超えるわけですが、では平均寿命の延びがここで止まるのかということ、そういうわけではなく、これは推計が2055年までしか出されていないのでここまでなのです。ただ、普通このカーブを見ていくと、これはさらに延びていくでしょう。樋口先生がおっしゃっていた人生100年時代も、推計上それに近い数字が出てくるのもそう遠くないと思っています。

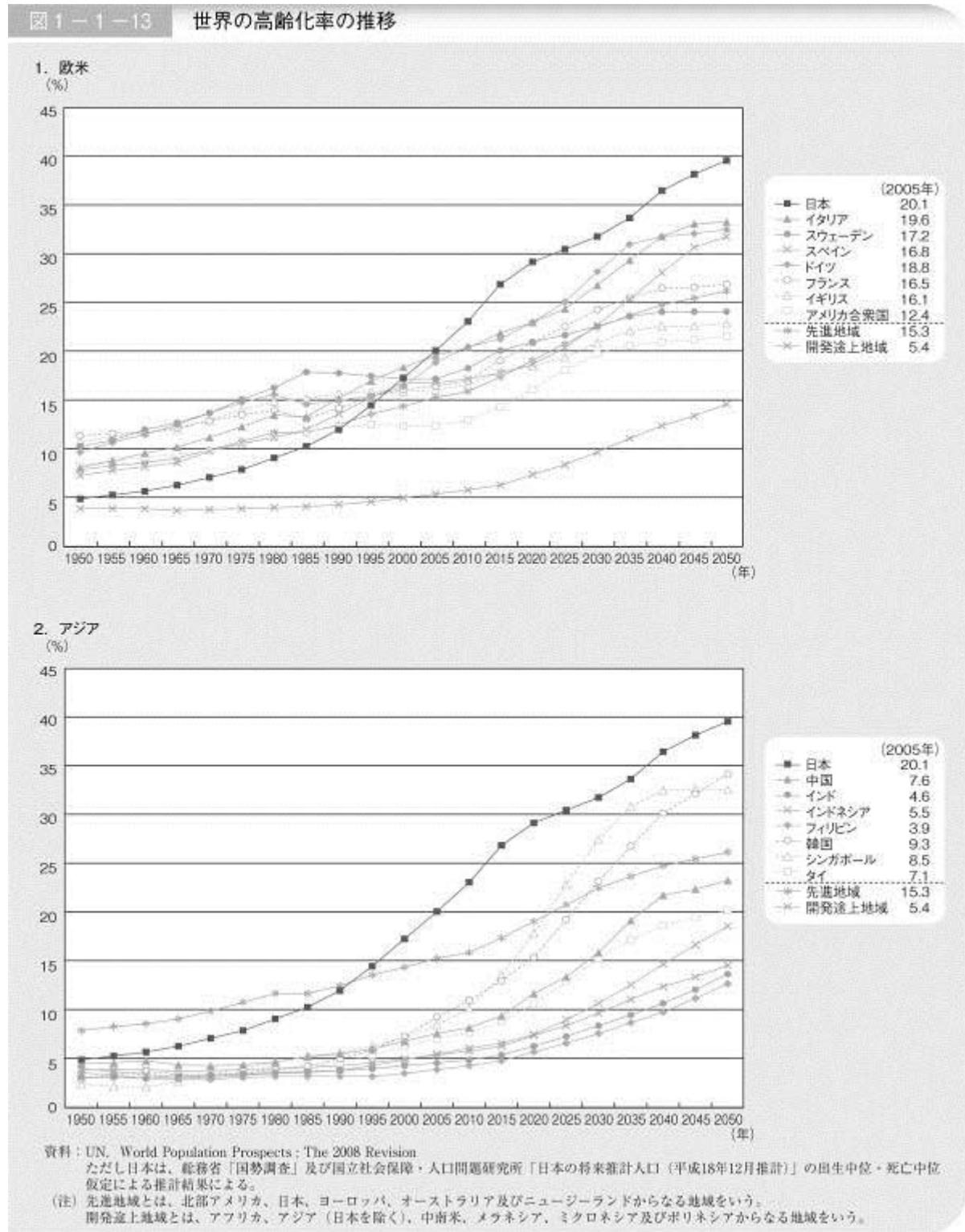
その下に、社会保障給付費の動きを書いています（図1-1-11）。



棒グラフの全体が社会保障給付費で、その中で下の部分が高齢者関係の給付費です。これを見ると高齢者関係はどんどん増えてきているわけですが、2000年を過ぎたあたりから、

国民所得に占める社会保障給付費が比率として24%ぐらいで横ばいになっています。このあたりから、社会保障給付の制限を意識的にやってきているのがお分かりいただけるかと思えます。

次に、国際比較についてです（図1-1-13）。



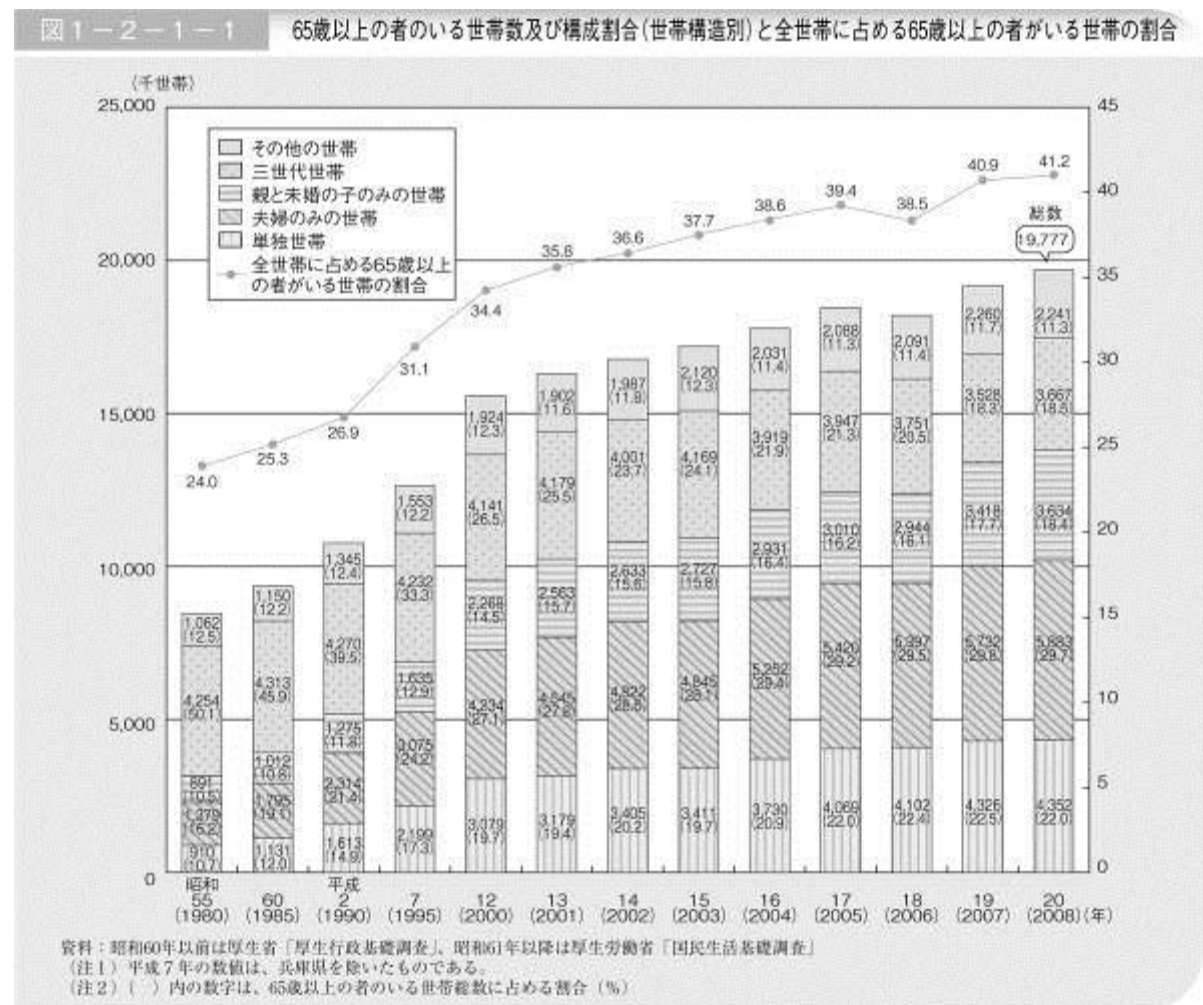
日本が2005年あたりから、高齢化率で世界一になっています。どうしてもこういうグラフを見ると日本だけに注目してしまうのですが、上のグラフで欧米を見ると、日本ほどではないにしても、欧米各国もかなりのスピードで高齢化が進んでいくことは間違いのないわけです。

欧州連合でも、高齢化の問題に非常に注目しています。まだ確定ではないのですが、2012年をヨーロッパ・イヤー・オブ・アクティブ・エイジング（ヨーロッパの高齢化年）と位置づけて、ヨーロッパ全体で高齢化の問題を考えるきっかけにすると聞いています。先駆けて高齢化している国として、日本モデルを輸出していこうという話もありましたが、まさにこの年に合わせて日本の経験を聞きたいので、日本の経験を話してくれないかというオファーも受けているところです。そこで胸をはって話せるような日本の施策なり、あるいは民間の取り組みをちゃんと作っていかないといけない。本当に注目されていると思う次第です。

## II. 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

### 1) 高齢者の家族と世帯の変化

6ページのグラフには、65歳以上の人がある世帯の数の伸び、あるいは世帯の種類——三世帯世帯なのか、一人暮らしなのか等——が書いてあります（図1-2-1-1）。



一番下の部分が単身世帯です。最後の特集のところでも孤立の話が出てきますが、先取りし